

3. 「魅力ある学校」づくり構想の検討状況説明会・質疑応答（概要）

○日 時：平成 28 年（2016 年）11 月 9 日（水）19 時～21 時

○場 所：庄内公民館

質問・意見等	豊中市からの回答
今日は北校の通学路しか説明がなかったが、南校の通学路はいつごろ説明されるのか。	本日は時間の関係上、北校エリアの一部の地域の通学経路しか説明できませんでしたが、今後、各校区で個別の説明会を開催したいと考えておりますので、その際に、詳しく説明したいと考えています。個別の説明会の日程は、学校や地域団体などと相談しながら、できるだけ皆さんに周知していきたいと考えています。
教職員組合との話し合いはどうするのか。 せんなりこども園はどうなるのか。	教職員組合との調整はしっかりと行ってまいりたいと考えています。 今回お示ししております構想案では、南校は千成小学校に隣接するせんなりこども園の敷地を加えて、整備することでも想定していますが、まだ決まったものではなく、今後どうなるのか未定です。市全体の公立こども園の適正配置につきましては、平成 28 年（2016 年）9 月に策定した「公立こども園の適正配置に向けた基本方針」に基づき、全体案を平成 29 年度（2017 年度）に作成し、その後、個別に実施計画を検討する予定です。
小学 1 年生が初めてランドセルを背負った状態で、学校までの通学時間は、どのくらいかかると想定しているのか。 北校の仮校舎の際、中学校は第十中学校に集まるといことだが、第六中学校区の三国から第十中学校までどのくらいの距離があるのか。	北校で通学距離が最も遠くと思われる稲津町 2 丁目から庄内小学校まで大人の足で、ゆっくり歩いて往復したところ、行きが約 33 分、帰りが約 34 分かかりました。 三国 1、2 丁目付近から第十中学校までの距離は約 2 キロです。
池田市の小中一貫校の教員から聞いた話によると、小学校と中学校では授業時間が異なるのでチャイムが鳴らないと聞いた。また、中学生は、定期テストの際に、小学生がうるさいので、集中できないなどの問題があると聞いたが、そのあたりは配慮されるのか。	新しい学校でも小学校は 45 分、中学校は 50 分の授業時間を基本にと考えています。授業時間のずれについて、先進事例では、授業ごとにチャイムを鳴らすのではなく、節目ごとにチャイムを鳴らして、子どもたちに時間を意識させる取り組みや、小学校と中学校の空間を分けるなど、それぞれの学習活動に悪影響がないよう、空間や動線を工夫されています。池田市の小中一貫校には、教育委員会の職員が視察に行かせていただいております、子どもたちが充実した学校生活を送っていると感じています。
資料 P8 に「9 年間系統的で連続性のある学習指導」や「9 年間一貫性のある生徒指導」という記載があるが、抽象的すぎ	子どもたちの成長は連続しています。小学校と中学校の教職員が、義務教育終了時の 15 歳の段階において、どのよ

てよく分からない。 資料 P7 に「自己肯定感」や「コミュニケーション力」という記載があるが、私の学生時代にも、こういう力が育つような教育を受けてきたと思う。今、わざわざ小中一貫校にする必要があるとは思えない。	うな子どもを育てたいのか、9年間を見据え、めざすべき“子ども像”を共有しながら、一貫性のある教育活動を行うことで、学力、社会性、自立心などの力が付くのではないかと考えています。例えば、4年生の段階では、このような力を付けていきたいと目標を決め、そのためにどのような指導方針で、どのような学びを深めていくのかという考え方をもって子どもたちを育みます。こうした小中一貫教育の考え方や小中連携は、全く新しい取り組みではなく、本市においても、従前より各中学校区の状況に応じて進めてきました。庄内地域の諸課題を解消し、子どもたちの教育環境をより良いものにするため、小中一貫教育を進めたいと考えています。 資料 P7 に示した図は、庄内地域の子どもたちにつけたい力、学力、社会性、自立心などを表したものです。子どもたちの9年間を見据え、育みたい力を一本化することで、より効果的に、このような力を育むことができるのではないかと考え、今回の構想案をご提案しています。
現状でも、小学校において、1、2年生を担当した教員は、3、4年生に進級した後も、子どもたちを見守っているのではないか。小中一貫校にするよりも、新たな気持ちで中学校へ進学する方がより良いと感じる。	現状の小学校におきましても、6年間しっかりと子どもたちを見守っていきこうと、教職員が多様な教育活動を行っています。中学校でも各学年のつながりを意識した教育活動を行っています。小中一貫教育では、小学校6年間、中学校3年間を接続し、15歳の段階で、どのような子どもに育てたいのかを、全教職員が共有して、教育活動を行うことにより、子どもたちのより深い学びや人間性の涵養につながるのではないかと考えています。 節目として、子どもたちの気持ちの切り替えや新たな決意の機会を設けることも大事だと考えています。小中一貫校の先進事例では、例えば、4年生で「2分の1成人式」や、7年生で「立志式」など、気持ちを新たにできるような行事をされています。新しい学校におきましても、こうした先進事例を参考にしながら、良い意味で気持ちの切り替えができるように工夫していきたいと考えています。

第六中学校には、分割校である千成小学校と庄内南小学校の子どもたちが進学してくるが、北校の仮開校の際は、第十中学校へ通うのか。 要望だが、新しい学校に通うことになる児童生徒は、今から小学校に入学してくる子どもたちなので、保育園、幼稚園などにも説明会の案内をもっとしてほしい。	再編スケジュールについて、北校の場合、平成 32 年度(2020 年度)の仮開校時に、庄内小学校、野田小学校、島田小学校区の子どもたちは、野田小学校の敷地に通うことになります。中学生は、新 1 年生は庄内小学校、野田小学校、島田小学校を卒業した子どもたちが、新 2 年生及び新 3 年生は第六中学校と第十中学校の在校生が、第十中学校の敷地に通うことになります。その 2 年後、平成 34 年度(2022 年度)に新校舎へ移転する際は、全学年、庄内小学校、野田小学校、島田小学校の子どもたちだけになります。庄内南小学校、庄内西小学校、千成小学校の子どもたちは、第七中学校に通うことになります。 今回の説明会の案内チラシは、事前に公立のこども園、私立の幼稚園の園長あてに送付しました。今後、こども園や幼稚園などに出向いて、個別の説明会などを開催し、できるだけ多くの方に周知していきたいと考えています。
北校について、仮開校は 2 年だけなので、島田小学校はそのまま残してはどうか。低学年に長い距離を歩かせるのは、体力的に無理があるし、途中で事故に遭ったら、誰が責任をとるのか。	通学路の安全は市が責任を持って確保してしなければなりません、事故が起こった場合の責任は、その状況によります。事故が起こらないように、しっかりと安全確保に努めてまいりたいと考えています。お示しした内容につきましては、現時点での想定案であり、決定したものではありませんので、本日いただいたご意見は持ち帰り、検討いたします。
この構想案は誰がどこで検討しているのか。市長は、低学年を約 2 キロも歩かせることは知っているのか。	本構想については、教育委員会と市の関係部局が集まり、適宜、検討会議を開催し、作成したものであり、市長には必ず報告しています。当然、通学距離についても承知しています。
既存の小学校で 9 年間過ごすという小中一貫教育の形は考えられないのか。そうすれば、通学距離や地域コミュニティの問題もなくなるのではないか。既存の小学校は空き教室もたくさんあるので、中学生も小学校の敷地で学ぶことはできないのか。	現在、庄内地域においては、児童生徒が減少し、6 小学校のうち 4 小学校でクラス替えが出来ない学年を有するなど、小規模校の課題を抱えています。既存の小学校区単位で小中一貫教育を行うと、さらに規模の小さい中学校になり、人間関係の固定化や部活動の縮小など、小規模校の課題がより顕著になると考えられます。従いまして、既存の小学校において、小中一貫教育を行うことは考えていません。なお、教育委員会ではさまざまな再編案を検討しましたが、総合的に勘案し、施設一体型小中一貫校 2 校を整備することが最善の案であると考え、提示いたしました。

資料に記載されている「連続性のある学習指導」や「一貫性のある生徒指導」は、小中一貫校にしなくても、工夫次第でできるのではないかと。今日の説明は、施設一体型小中一貫校をつくるという“箱物”ありきで、内容は後から付け足したようにしか見えない。今までの説明会で、第七中学校区において小中連携を行っていると聞いたが、その成果も聞かされないまま、さらにそれを進めた小中一貫校が良いと言われても、信憑性がない。 1,000 人を超すマンモス校になることに対して、工夫すると言うが、目の届かない子どもたちが出てきて、勉強についていけなくなったり、非行に走ったりする子どもたちが増えるのではないかと心配である。 通学時間については、30 分ほどかかると説明があったが、実際に子どもを歩かせた方からの話によると、40 分以上もかかり、途中で嫌だと泣いたと聞いている。そのような話があるのに、30 分ほどで通えるという説明は、信憑性がなく、全く信じられない。 小学生が中学生とずっと一緒にいたら、色々な問題が起こってくると思う。例えば、上級生からいじめられ下級生が学校に行けなくなったら、どうするのか。先生は、よく、いじめは、色々な側面があるから一概にいじめとは言えないと言うが、いじめられた子からしたら、いじめになる。そのような意識の差も全然考えていないのではないかと。そのような課題があるのに、メリットばかりを説明するので、ただ良いことだけを言っているようにしか見えない。小中一貫校の課題は何なのか。どんなことが懸念されるのか。デメリットも説明した上で、それを越えるメリットがありますと自信を持って言えるのか。今日の説明ではそれを感じなかった。	小中一貫校に対するご心配、ご不安なお気持ち、重く受けとめさせていただきます。 先進事例をみますと、小学生と中学生と一緒に過ごすことによって、上級生は下級生の見本になろうとする意識や自己肯定感が高まったり、下級生は上級生に対して憧れの気持ちが強まったりするなど、日常における異学年交流などを通じて、豊かな人間関係が築かれると考えています。 参考資料としてお配りしています「魅力ある学校づくり通信 第2号」の3ページには、小中一貫教育の課題を掲載しています。小中一貫教育の課題として、例えば、小中の教職員間での打合せに時間がかかることなど、さまざまな課題があることは認識していますが、教育委員会といたしましては、課題以上に、メリット、成果があると考えています。例えば、小学校の教員は、子どもたちが中学校に進級しても、関わり合いを持ち、中学校の教員は、小学生の時から、子どもたちの成長を見守ることができます。今、庄内地域が抱えている諸課題を解消するために、小中一貫教育を導入することは、最善の策だと考えています。
私は庄内西小学校出身で、庄本地区に住んでいる。地域で役員をやっている関係で、庄内西小学校の卒業式には、毎年のように出席しているが、6 年生が卒業する時に、5 年生に学校をよろしく頼むといって巣立っていく姿に、毎回感激している。今の小学校においても、小学校高学年になるにつれて、指導する立場になったり、低学年を愛おしく思ったりするなど、立派に成長している。また、現在の庄内西小学校と第七中学校は連携ができており、中学校に進学すれば、関わり合いが終わるのではなく、次の過程でも見守り続けていると思う。中学生に進学することで、新たに気持ちをリフレッシュできると思う。	本市におきましては、全市的に小中一貫教育を進めていきたいと考えています。とりわけ、庄内地域の6小3中の子どもたちには、“学びの連続性”と“豊かな人との出会いの機会”を与えたいと考えています。小中一貫教育においては、例えば、中学校の教員は小学校の授業を見て、中学校でつまづく原因はここにあったのだと気付くことがあります。子どもたちの育ちや学びは連続していますので、9年間、小中の教職員と一緒に見守りながら、課題を見つけ出し、具体的に課題解消のためにどのような取り組みができるのかといった授業改善につなげることができると考えています。庄内地域の子どもたちは、人懐っこく、人に

小学校低学年の幼い子どもたちが、中学 2,3 年生の大きな生徒と一緒に校舎で過ごす中で、本当にのびのび育つことができるのか不安である。 新しい学校ができることは、決定していないということだが、これだけ皆さんの反対があるので、もう一度考え直してほしい。小学校をそのまま残して、中学校を統合すれば良いのではないか。中学生であれば、通学距離のことも心配いらないと思う。	関心があり、困っている子を見つけたら、立ち止まって声をかける子が多いと感じています。そのような子どもたちの良いところをのびし、人間性あふれる豊かな心を育むため、子どもたち同士が触れ合う機会を増やす機会を今以上につくっていきたいと考えています。 先ほど、お話に出ました庄内西小学校の卒業式には私も出席しましたが、6 年生が本心からこの学校を頼むと、下級生に言っているのを見て涙が出るほど感激しました。そのような区切りやけじめの式は、新しい学校においても必要であると考えており、全国の先進事例を参考にし、9 年間の中で、目標を見直したり、新たな気持ちになったりする機会をつくっていきたいと考えています 本日いただいたさまざまなご意見を真摯に受け止め、引き続き、地域の皆さまとともに、子どもたちのために「魅力ある学校」をつくっていきたいと考えています。
私は市内の小学校の教員で、庄内小学校と第六中学校の卒業生である。小中一貫教育について、イメージばかりが説明されていて、教員の私は別として、市民の方は、実際どういうことなのか分からないのではないかと思います。 資料には、施設一体型のシミュレーション図が記載されているが、これでは、あまりにも空間が狭いと思う。学校は、普通教室と特別教室以外にも、例えば、保健室、図書室、教員室、更衣室、支援学級、倉庫等、たくさんの部屋が必要である。私がいる小学校では、図工室、理科室、音楽室などが 2 教室ずつあるが、各学年が使用するので、時間割を組むのが大変なほど、ほとんど使用している状況である。この図を見ると、恐らく、中学校と小学校の特別教室をそれぞれ十分に確保するのは難しいのではないかと思います。このようなシミュレーションだけでは、実際の学校の様子は分からない。もう少し具体的な図を示してほしい。	今回お示ししています施設一体型校舎の例は、施設面について、北校、南校の敷地で教育活動が可能か、どのような教室がどのくらい必要であるのかを検証するために作成したものであり、実際には、計画が固まってから、保護者、地域の方、学校関係者などと一緒に学校づくりを進めていききたいと考えています。 小中一貫教育について、本日の説明ではご理解いただけないというご指摘につきまして、時間の関係上、まだ十分にお伝えできていませんので、今後も「魅力ある学校づくり通信」を発行したり、できるだけ多くの説明会を開催したりするなどして、丁寧に進めてまいりたいと考えています。
今の学校では、「魅力ある学校」づくりは取り組んでいないのか。 小中一貫教育を導入するということだが、義務教育は、小学校、中学校の教育課程を設けることが定められているのではないか。	現在も、各小中学校ではさまざまな工夫をしながら、「魅力ある学校」づくりを進めています。小規模化した学校規模の課題などを含めて、庄内地域におきましては、抜本的な改善策が必要であると考えており、今回の構想案をご提案しています。 小中一貫教育につきましても、文部科学省が定める学習指導要領に基づき、1～6 年生までは小学校の、7～9 年生までは中学校の学習指導要領に沿った指導を行うことになります。